The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 特集「英語での発信力を育成するための大学英語教育最前線」 |
| Author(s) | 竹蕪, 順子 |
| Citation | サイバーメディア・フォーラム. 2016, 17, p. 3-4 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/70404 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 特　集

## 特集：英語での発信力を育成するための大学英語教育最前線

竹蓋 順子（大阪大学）

グローバル化の進展で、真に使える英語力を持つ人材育成が強く求められる中、今年８月１日、中央教育審議会により次期学習指導要領の審議まとめ案において英語教育の強化方針が提示された。その中の高等学校の「外国語」を確認すると、文法や語彙などの知識偏重から脱却し、コミュニケーション能力を育てること、そして、英語での発信力を伸張することが強調されている。こうした方向の目標は、「グローバル人材の育成」という言葉が世の中に浸透してきた６，７年前から盛んに掲げられるようになっているが、その目標達成のためには、どのような理論のもと、どのような教育実践が有効か、といった研究はまだ少なく、これからの展開が期待されている。今回の特集では、まさにこうした時代の要請にあった、英語での発信力を育成するための基礎研究や、それらに基づいた教材開発、指導実践について取り上げる。

まず、横川博一氏は、将来、大学院に進学したりビジネス界で活躍することが期待されている大学生が「英語でプレゼンテーションできるようになること」を授業の目標として掲げ、外国語の言語処理プロセス、そのプロセスを効率的に進める際の困難点、話すことの熟達化に伴う脳機能の変化などの基礎研究を基盤として、具体的にどのような授業を実践し、その結果、どのような成果がもたらされたかを詳述している。専門的な内容も噛み砕いて解説されており、明日からの授業や学習に役立つ内容となっている。

次に、染谷泰正氏は、多くの日本人英語学習者が苦手とする英文ライティングの力を効果的に養成することを目指して開始された「関西大学バイリンガルエッセイコーパス」プロジェクトの一環として、「英文エッセイの構造・論理分析のためのツール」を共同開発し、これについて紹介している。このツールは、日本人大学生が書いた英文エッセイを分析した結果、その存在が明らかとなった「論理的、修辞的な問題」について半自動的に抽出し、学習者に提示する仕組みとなっている。すでに一般公開され、全国の教育機関にて活用されている「バイリンガルエッセイコーパスサイト」に、今後、このツールが組み込まれることを期待したい。

小張敬之氏は、「教育で大事なことは、他者と比較せずに、スタンフォード大学のキャロル・ドウェックが見出した『成長思考』―学習する能力は固定しておらず努力によって変えられると信じること」である、との信念のもと、英語の授業を通して、世界観や神観を指導する試みを行うと同時に、様々な教材やICT機器を活用した反転授業を実践し、受講生の外部テストでの得点が大きく伸張したことを報告している。

西田理恵子氏は、大学生の興味、関心に基づいて選定した TED Talks を活用したプレゼンテーションプロジェクトの有効性について、学習者の動機付けと情意の視点から観察、分析している。一学期間に及ぶ指導を実践した結果、TED Talks をうまく授業に採り入れることで、学習者の動機付けや情意面に肯定的な変化が観察されることを明らかにした。さらに、自分たちの専門分野のスペシャリストや各界のリーダーの話を傾聴して分析することは、学生が将来の自己像を具体的に想像するきっかけとなった可能性がある、と結んでおり、西田氏の報告している授業実践は、「コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成」や「プレゼンテーション能力の育成」が求められている現代における１つの有効な方法と言えそうだ。

特集の最後の記事は、グローバル人材育成の実現に向けた大阪大学での取り組みの一環として、学内の CALL 教室で TOEFL iBT® を受験できる体制を構築したことに関する報告である。この体制の構築にいたるまでのプロセスに加え、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプ A（トップ型）に採択され、学生に海外留学を推進している本学にとって、これがどういう意義を持つかが記されている。

以上、「英語での発信力を育成するための大学英語教育最前線」の特集として５本の記事が掲載されている。英語教育に携わっている方はもちろん、英語での発信力に磨きをかけたいと願っている方々にもご高覧いただければ幸甚である。


・心的プロセスから見た外国語の処理と学習 ---------- 横川　博一　5
　—授業実践と基礎研究のインターラクション—

・英文エッセイの「構造・論理分析ツール」の開発 ---------- 染谷　泰正　11

・ユビキタス環境における Mobile Technologiesを利用した ---------- 小張　敬之　17
　CLIL 英語教育・世界観教育

・大学英語学習者におけるプレゼンテーションの効果 ---------- 西田　理恵子　23
　：動機付けの視点から

・Construction of a framework for offering ---------- 竹蓋　順子　27
　the TOEFL iBT(R) on campus